9日　木曜

列王Ⅰ

15:1 ネバテの子ヤロブアムの第十八年に、アビヤムがユダの王となり、
15:2 エルサレムで三年間、王であった。彼の母の名はマアカといい、アブサロムの娘であった。
15:3 彼は、かつて自分の父が行ったあらゆる罪のうちを歩み、彼の心は父祖ダビデの心のように、彼の神、【主】と一つにはなっていなかった。
15:4 しかし、ダビデに免じて、彼の神、【主】は、彼のためにエルサレムに一つのともしびを与えて、彼の跡を継ぐ子を起こし、エルサレムを堅く立てられた。
15:5 それは、ダビデが【主】の目にかなうことを行い、ヒッタイト人ウリヤのことのほかは、一生の間、主が命じられたすべてのことからそれなかったからである。
15:6 レハブアムとヤロブアムの間には、彼の一生の間、戦いがあった。
15:7 アビヤムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。アビヤムとヤロブアムの間には戦いがあった。
15:8 アビヤムは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アサが代わって王となった。

ヤロブアムは北王国すなわちイスラエルの王です。彼の治世に、南王国ユダでは王が変わり、レハブアムからアビヤムになりました。
「彼は、かつて自分の父が行ったあらゆる罪のうちを歩み」とあります。彼の王位が3年しか続かなかったのはそこにあります。王になるということは名誉であり、この世の成功者といえるでしょうが、主に従わない者には、その喜びも長くはありません。
また「レハブアムとヤロブアムの間には、彼の一生の間、戦いがあった。」、「アビヤムとヤロブアムの間には戦いがあった。」と、争いのことが重ねて記されています。不信仰な者には争いはつきものです。自分中心だからです。
一方、ダビデの信仰ゆえにアビヤムの「跡を継ぐ子を起こし、エルサレムを堅く立てられた。」とありますから、良き信仰は子孫を助けるということも、知っておくべきでしょう。
信仰と不信仰の結果はあらゆるところに影響するのです。全能の主に関することですから当然のことです。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？